審査の結果の要旨

論文提出者氏名　　金　眞摸

本論文は，戦前・戦後から高度成長期にかけて時代の変化に対応する近代的な公共住宅の供給に際して，主として実践の立場から分析・考察を行うものである．これまでの日本の公共住宅に関する研究は，主として建築計画学的な立場から論じられるものの，具体的な実践活動の立場からの研究は少ないといえる．特に，在野にあって実践活動を通じて数多くの公共住宅に携わった人物の具体的活動の影響についての位置づけはなされていない．本論文はこうした人物を代表する市浦健の活動を分析することで，具体的実践活動の側面から日本の公共住宅の形成・変容過程を明らかにするものである．論文提出者は，現株式会社市浦都市開発コンサルタンツ所蔵の履歴書や経歴書等の各種の具体的資料を下に公共住宅に関する市浦健の研究活動・実務活動を整理分析し，日本の公共住宅を新たな視点から捉え直しているといえる．

本論文は4章で構成されている．

第1章は研究の起論にあたる部分で，市浦健の公共住宅に関する建築活動と密接に関連する，戦前から1970年代中期までの社会状況の整理を行い，市浦健の活動経歴を整理分類している．

第2章では，戦前・戦時下における彼の研究活動と実践活動を分析し，彼の行った具体的提案，1）半官半民の会社による住宅の生産管理と住宅対策の提案，2）乾式構造の提案，3）経済的側面からの研究に基づく労働力の削減および工業化・規格化による大量生産の提案，4）標準設計の下となる平面規格，基準寸法の提案の内容とその意義を当時の社会状況と関連づけて論証している．当該部分は，戦後の実践活動の基礎となる理念形成の過程を明らかにするという意味で貴重な研究といえる．

第3章では，主として第2章で明らかになった彼の理念を実現する戦後の実務活動の分析・考察を行っている．その結果，彼が42件にも及ぶ標準設計に関わったことを明らかにしている．また，当時としては画期的な平面構成をもつ公営住宅標準設計54-CⅡ「スターハウス」の提案を当時の他の標準設計と比較することで，そこに，彼の標準設計が住宅団地の景観を変化させるだけでなく，従来の単調な配置計画を多様化し，景観という視点の先駆的導入という意義を見出している．また，彼が約50件の団地・ニュータウン計画に携わったことを明らかにした．その内，1965年の石神井公園団地が果たした住宅団地の配置計画の多様化への貢献を具体的に明らかにしている．更に，1975年のNPS（ニュープランシリーズ）の分析を通じて，配置構成の単位を住棟から住戸へ変化させたことが果たした団地計画における重要性を論証している．当該部分は，戦後における日本の公共住宅の変容過程を実践活動者の具体的活動という視点から捉え直すこれまでにない試みといえる．

第4章では，市浦健の団体・組織での活動を分析・考察している．その結果，彼が，終

戦前に，新興建築家連盟や日本工作文化連盟等の団体で雑誌編集活動を行い，海外の建築事情の紹介に努めていたことを明らかにしている．さらに，日本設計管理協会（現在の日本建築家協会）に代表される組織での委員や委員長活動を明らかにしている．その過程で収集された海外の実例がスターハウス標準設計につながる等の実務活動との関連を指摘している．また，上記の組織での活動を通じて，彼が有していた建築家という職能に関する関心と考え方，さらには専門コンサルタントとして都市計画コンサルタントの確立に向けて努力していたことを明らかにしている．また，彼の果たした役割として，実務経験を基礎として公共住宅に関わるさまざまな問題を調整・指導するプロデューサー的役割を果たす総合コンサルタント業の確立を挙げ，それが，戦前・戦後の研究・実務活動と都市計画専門コンサルタントとしての経験，日本建築家協会での活動経験に裏打ちされたものであることを論証することに成功している．

以上，本論文は，日本の公共住宅の形成にかかわった市浦健の研究を通じて，これまで日陰の存在であった実践者が公共住宅に果たした役割を，具体的な活動履歴を詳細に分析することで明らかにし，従来の研究とは異なる方向から光をあてた貴重なものといえる．

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる．